

田原市立田原福祉専門学校同窓会機関誌

たっぷく だより

No.18

編集発行 平成27年3月1日

田原福祉専門学校同窓会
会長 松原 宣子



笑顔で集まった卒業生たち

「介護の誇り胸に秘め」

校長 山田 貴三



本校に着任以来、早いもので十一ヶ月が過ぎようとしていますが、超高齢社会を迎え我が国にあつて、介護を取り巻く状況が激動の渦中にあることを改めて感じています。特に介護人材については、地域包括ケアシステム構築に不可欠な社会基盤として、「量」と「質」の好循環の確立が急務となっております。

このような中、本校では介護の「深さ」「楽しさ」「広さ」など、その魅力の発信に努め、学生募集に当たりたいと考えています。介護人材としての外国人留学生の受け入れについても検討しています。また、来年度からは喀痰吸引、経管栄養など、医療的ケアに関する教育が始まります。実務経験者の資格取得を支援するための介護福祉士実務者研修通信課程の開講は、平成二十八年度を予定しています。

一階ロビーに詩人大岡信先生の手による校歌、「介護の誇り胸に秘め」の歌詞を綴った書が掲げられています。歌詞を辿っていくと田原市の豊かな自然や歴史、伝統文化に包まれた本校に学ぶ学生たちへの、温かな励ましと優しさに溢れた眼差しを感じ取ることができます。

今後とも、皆様方の本校並びに学生に對しますますご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

同窓会の集い

同窓会事務局

平成二十六年十一月十六日、全卒業生を対象に、同窓生の集いが開催されました。会には、第一期生十名、第二期生九名、第三期生二名、第四期生五名、第五期生五名、第七期生一名、第九期生四名、第十二期生二名、第十三期生五名、第十四期生一名、第十六期生二名、第十七期生三名、計四十九名の皆さんにご参加いただきました。

会は、役員さんの「会場は懐かしい母校で。会費はより安価に」とい



う強い思いもあり、「たっぷくだより第十七号」でご案内させていただきました会場を、「豊橋駅周辺ホテル等」から、「田原福祉専門学校」へと変更して行われました。

当日は、午前十一時から講堂において松原宣子同窓会会長、そして、山田貴三校長の挨拶で始まりました。続いて第一部「研修発表」、第二部「懇親会」という日程で進みました。

第一部の研修発表では、会場を介護実習室に移し、「ポジショニングについて」と題して、松原会長が研修会で受講された最新の内容を発表

されました。モデルは参加者自身、クッションなどを使用した分かりやすい説明、職場ですぐに実践できる内容とあって、皆さん熱心に受講されていました。

参加者からは、「今は子育てのため離職していますが、研修発表に参加して昔のことを思い出し、もう一度働こうと思いました」、「勉強になりました。次回もこのような研修会を行って欲しい」という意見も多く聞かれ、とても有意義な研修発表となりました。

第二部は、再び会場を講堂に移し、食事をしながらの懇親会です。懐か



しい校舎で懐かしい顔と出会い、食べものを囲みながら、昔話や近況を報告し合うなど、笑いの絶えない一時を過ごすことができました。お子さんも多数参加しての、にぎやかで楽しい時間となりました。

中には、神奈川県、長野県、岐阜県など、遠方からの参加者もお見えになりました。話は尽きないようので、会の終了後、二次会に行かれる方も数多くいらっしゃいました。

参加者へのアンケートでは、久しぶりに同期生に会った喜びを綴ったもの以外に、「学校に来る機会ができて良かった」、「いろいろな年代の方と話をすることができて良かった」、「参加者をもっと増やしたい」などの感想が多く見られました。

今回の開催は、学校創立二十周年となる、平成二十八年度に予定しています。多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

同窓会

同窓会長 松原 宣子

田原福祉専門学校に入学してから二十年になります。入学した頃は介護について何もわからない事ばかりで、介護の仕事をしていけるの不安に思うこともありました。

あれから二十年の歳月が経ち、自分が教える立場になりました。職場も介護施設から病院へと変わり、介護の奥深さを感じるこの頃です。特に病院に移ってからは、ターミナルケアを経験することが増え、利用者



の方が終焉の時を迎えるためには、今のような介護をしていくのが良いかということを考えてはなりません。その方が良い人生だったと思えるために、私たちに何ができるのかを考えてはなりません。また、その方の家族はどう思っているのかも聞き取り、良い介護を考えるとどういふことなのかを考えることが多いこの頃です。

初めのころは業務をどうまわしていけば良いか、またケアプランをどうすれば良いかなど、今をどうするかを考えることが多かったと思います。しかし、今はその人の人生を見て、どのようなケアが必要なのかを考えなければいけないのではないかと思います。

今回、初めて同窓生が集う会を開催しました。準備段階で日時・場所・内容などを決めていく中、準備を手伝ってくれた卒業生と話す機会がありました。介護を取り巻く環境や仕事の問題点、また今後どのような介護が必要かなどについて話をしました。そして今回、集まった卒業生からもたくさん話を聞くことができました。その中でも一番多いのが賃金のことでした。一般企業より賃金が低く、重労働であることが、多く

の人が介護職から離れていく理由となっているということです。また、介護では必ずしなくてはならないことですが、移乗により腰痛になる人が多いのも現状です。最近は介護ロボットなども出てきていますが。

私が学校を卒業した当時は、施設での介護が大半でしたが、今は在宅での介護へと向かっています。先日受講した介護支援専門員の実務研修で、コミュニケーション・ケアの推進についての話がありました。資料には、「脱施設化の推進や社会的入院の解消を進めていく方針である」と書いてありました。しかし、在宅で介護ができる環境はまだ整っていません。在宅で介護ができるようにするために、家族の理解や地域で支える仕組みが必要だと思っています。

私たちの老後は、施設への入所や病院への入院が待っているのではないのでしょうか。今の高齢者が通る道が、私たちも通る道になっていきます。自分の老後を考えると、これが良いのかと思います。また、誰も自分が認知症になるなどは考えていないと思います。もし自分が認知症になったら、今、自分がしている介護で良いと思いますか？施設で暮らしたいですか？今は大きく分けて在宅か施設の選択しかないのではと思



います。一人ひとりの老後は、個々の生き方を尊重できる環境であって欲しいと思います。卒業生には、高齢者にとって良い環境を作っていたきたいと思っています。

一人ではできないことも、人が集まればできることが増えると思います。そのためにも、同窓会が多く人の集まる場となって欲しいと願っています。同窓会では、より多くの卒業生が集まり、意見交換やより良い介護技術などを話しながら、交流を深めていきたいと思っています。

とっておきの時間

元事務職員 彦坂 英美



平成二十六年四月、市役所に配置替えになりました。六年九月という市役所に入ってから最長の期間を終え、ついに『たつぷくを卒業』する日がきてしまいました。田原福祉専門学校で、学生達に囲まれて過ごした時間は、私にとって有意義でかけがえないものでした。

専門学校での毎日は、慣れない業務、不得意な業務に囲まれながら、かつ、日々新しい事柄に対処したりすることが多かったことが印象的でした。当時の力及ばない状況に、情けなく過ごした日々を思い出すこともしばしばです。

周囲には、いっぱい迷惑をかけながら、でも、自分の中では、楽しいこともたくさん経験させていたいただきました。異動当初には、慣れない環境の中で戸惑いを隠せない私に、気軽に声をかけてくれて、学校に慣れさせてくれた学生。親子ほど年の違う私と友達のように接してくれた学生達には、感謝の気持ちでいっぱい

です。学生達に囲まれて、気持ちだけは若返り、流行の情報を聞いたり、人と関わったりすることで自分自身もまた成長することができているのは、市役所の事務仕事では経験のできないことです。

福祉の世界、介護職は厳しい職種だと言われている中、介護福祉士を目指して入学し、国家資格を取得して卒業する学生達。困難な場面を幾度も乗り越えていく姿は、時に仕事で悩んでいた私の励みにもなりました。



た。高齢者施設や障害者施設での実習体験や、卒業後の職場での様子を聞く度に、学生達の感性に大きな驚きを感じ、同時にしつかりとした担い手で活躍して欲しいという願いと、たつぷく生の頼もしさを感じるばかりでした。

卒業した学生達が、仕事を頑張り、また、結婚や出産を経ていく様子を見るのも楽しみでもありました。

そんな長い在職期間だったため、思い出深いことも数多くあります。

昨秋には、卒業生の晴れの日、結婚披露宴に招いていただきました。当日、席に置かれたメッセージには「彦坂さんには、専門の時本当にお世話になりました。……中略……彦坂さんが居てくれたから学校も頑張れたし、介護士になれたんだなって思っています。」と書かれていました。とってもステキな言葉をいただきました。胸がいっぱいになりました。披露宴では、これから一緒に過ごす旦那様の笑顔に、安心感と羨ましさが入り混じった、まさに親心が出てしまったひとときでした。幸せな門出の日を、一緒に過ごすことができたことも、私の財産です。

話は変わりますが、先日、専

門学校時代にお世話になった方にお会いした時に、「若い人に囲まれなくなつたから老けたんじゃない?」と言われてしまいました。それほどまでに、学生達からたくさんのパワーをもらっていたんだと実感することとなりました。

職場は離れてしまいましたが、卒業生の皆さんとは、おなじ空間と時間を共有してきたことには変わりはありません。母校としての「たつぷく」は、みんなの心の支えだと思えます。私にとっては、みんなとの出会い、関わりが心の支えでもあります。これからも、変わらずに『とっておきの時間』を一緒に過ごすことができたらと思っています。

今の職場では、NPO関係やボランティア関係の方々との関わりもあります。福祉というたつぷく時代の経験も少々役立たせることができます。私もついにたつぷくを卒業しましたが、たつぷく時代に経験したことが、着実に私を育ててくれたんだと、実感しています。

卒業生、在校生の皆さんも、学生生活を有意義に過ごしていただき、たつぷくが心のよりどころとなることを願っています。



新役員になって

十七期生 大原 徹

同窓会役員になって本当に良かったと感じています。就職した施設での仕事に活かせる経験や知識の宝庫です。イベントサポートには仕事とは異なる充実感・達成感があります。都合のつかないときは、会議等の休みも可能です。この喜びを一人でも多くの方と分かち合うことができたいと思います。皆さんも同窓会に役員として参加して、一緒に盛り上げていきませんか！

同窓会役員になり、職場以外の多くの方々との出会いがありました。



たっぶく祭にて 左が大原徹さん

この出会いは、職場で得られない様々な情報や考え方を自分に与えてくれました。私自身は蔵王の杜で知的障害のある利用者の方々の支援をしております。他の障害者施設や高齢者施設の諸先輩の話には、自分と異なった観点で問題を捉える多くのヒントが含まれています。いつもの仕事が有意義で充実したものに変わっていく実感が今も続いています。

同窓会が主催するイベントの企画運営も楽しさで溢れていました。一期生から十七期生までの全卒業生を対象とした初めての同窓会では、企画提案から参加させていただきました。準備や運営では役割の一端を担うことで、仕事とは異なった達成感も格別でした。

たっぶく祭へのOB参加では、うどん提供を任せていただき、食材や資材の仕入れから調理、販売に至るまで多くの経験が生まれました。少しでも困ったことがあればみんながフォローしてくれますので、何も心配することがありませんでした。遊びに来た同期生や現役の方々との交流もあり、至福の時間を過ごすことができました。

これからも微力ながら尽力いたします。ご支援・ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

携帯電話（または自宅パソコン）のアドレス登録のお願い

学校行事・同窓会行事等につきまして田原福祉専門学校メール配信システムでご案内いたしますので、皆さまのメールアドレスを下記の方法で登録していただきますようお願いいたします。

一斉メール配信のシステムですが、卒業期別毎に登録できますので、同期会の開催通知を配信する場合など、ご連絡いただければ協力させていただきます。皆さん登録のうえ、是非ご活用ください。

【田原福祉専門学校メール配信システム登録方法】

①次のアドレスに空メールを送ります。(QRコードから読み取りができます)

宛先：tahara.tchs@fofa.jp

件名：(記述なし)

本文：(記述なし)

②登録案内メールが届きます。(案内に従って操作してください)

③完了メールが届きます。

※②の登録案内メールが届かない場合は、「fofa.jp」を受信許可ドメインに設定して下さい。



【田原福祉専門学校メール配信システム解除方法】

①次のアドレスに空メールを送ります。(QRコードから読み取りができます)

宛先：tahara.tchskaijo@fofa.jp

②解除完了メールが届きます。(案内に従って操作してください)



● 学校行事 ●

公開講座

平成二十六年十一月十五日(土)

『食べることは生きる力』

講師：ナースングホーム気の里

施設長 田中 靖代 氏

本年度は、長年にわたり看護師として食べることにこだわりをもった看護をされ、その集大成としてナースングホーム気の里を立ち上げられた田中靖代氏をお招きし、講演会を開催しました。

講演では、受講者全員に水の入ったコップとスプーンが配布され、飲み込みやすい体勢、飲み込みにくい体勢を体験しながら、良い飲みませ方を教えていただきました。また、参加者がモデルとなり、飲ませ方の実演を行い、感想を述べていただくという、参加型の楽しい講演会になりました。

また、食べ物を飲み込む時の喉の動きや仕組み、症状に応じた食べさせ方、食べられるようになったことで症状が改善された事例などを、パワーポイントを使って説明していただきました。食べられることの素晴らしさ、食べさせることの大切さを理解する良い機会となりました。



受講者アンケートでは、「メカニズムを知ることの大切さを知りました」、「確かな経験に基づいた説得力のある、とても学びの多い講座でした」、「嚥下体操が良かった」など、大好評でした。

当日は、学生も受講させていただきましたが、実習ですぐに実践できる内容であり、良い学習機会となりました。改めてお礼申し上げます。

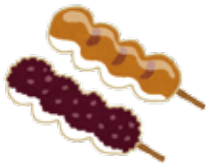
平成二十七年年度は、十二月十四日(土) 古武術介護の岡田慎一郎先生をお招きして開催の予定です。

たつぷく祭

平成二十六年十月十七日(金)・十八日(土)の二日間にわたり、「Glee〜一人ひとりの笑顔〜」というテーマのもと、開催されました。

福祉施設の利用者さんや地域住民の方々、卒業生など多くの皆さんに來校していただく中、福祉用具や福祉文化活動で学生が作った作品の展示、パスタ・だんご等の模擬店、ゲーム、抹茶席、手浴体験などの催し物が行われました。

学生たちも來校された皆さんの笑顔に笑顔で返し、テーマどおり笑顔の溢れるたつぷく祭となりました。



● 同窓会行事 ●

平成二十六年十月四日(土)、たつぷく祭用のさつまいもの収穫を行いました。五月の総会后、参加者全員で植えたものです。今年は「大学いも」用が小ぶりのうえ収穫量が少なく、「タルト」用の紫いもが大きくて収穫量も多いという、例年とは違う結果となりました。



さつまいもの収穫後、参加者の慰労とさつまいものお世話をしていただいている地域の方たちへの感謝の気持ちを含めて、学生寮駐車場においてバーベキューを行いました。



学校だより

職員紹介



河合 義弘

田原福祉専門学校の勤務になり一年が経とうとしています。今まで経験したことのない業務に、戸惑いと不安であせり続けた一年でした。

「たつぷく」に来て思ったことは、優しい人懐っこい学生が多いという事でした。人見知りなので、学生とどう接して良いか戸惑っている私に、学生から声をかけてくれ、時にはお菓子をくれることもあり、自然と話をするようになりとても助けられました。それからは、学生と話しをするのが楽しくなり、この子たちががりっぱな介護福祉士として巣立つまで一生懸命サポートをしようと思いうようになりました。

「たつぷく」には卒業生がよく遊びに来てくれます。教職員と友達のように昔話や近況報告、相談などをしている姿を見ると、人懐っこさは「たつぷく生」の伝統なんだと感じ

ています。そして「たつぷく」が好きなんだなあとも感じます。こんなに卒業生が遊びにくる学校は他にないと思います。

もうすぐ十八期生の学生が卒業しようとしています。介護職という、これからとても必要とされている職場に進んで行く学生たち。先輩たち同様、逞しく頑張ってくれと信じています。そして逞しくなった姿を見せに学校に遊びに来てくれることを楽しみにしています。



武田 貴嗣



四月から田原福祉専門学校に勤務をして、早くも一年経とうとしています。福祉専門学校開校当時から、外観に憧れて一度入ってみたいと思っていました。今は毎日そこで仕事をしています。

はじめは、学生の名前と顔を覚えるのに必死で、間違えて迷惑をかけ

ることもありました。毎日の学生への対応、嵐まつりやたつぷく祭等の行事を経て、学生一人ひとりと関わり、学生のことを少しずつ知ることができました。今では、学生に声を掛けられることが仕事のやりがいだと感じています。

この田原福祉専門学校では、毎日の講義、実習、学校行事と忙しい二年間の学生生活を通して、社会人として働いていくために様々なことを学ぶことができるので、しっかりと学んでもらいたい、卒業後の学生の活躍に期待をしたいと思います。

卒業生のみなさまにも覚えていただけのように、来校の際や同窓会行事のときには積極的に声を掛けていきたいと思えます。

まだまだ至らないところも多いですが、学生が入学してから卒業をするまでの二年間の学生生活が充実したものになるようにできる限りのサポートをしていきますので、よろしくお願ひいたします。



同窓会総会を開催します

平成27年5月24日(日) 午前10時～

田原福祉専門学校 講堂にて



☆☆☆総会終了後に、さつまいもの植え付けを実施します。☆☆☆

たっぴく ティールーム



今回は、たっぴく祭と同窓会の開催に協力してくれた卒業生達と反省会を兼ねてお疲れ様会を開催し、介護現場の情報交換と平成二十七年の同窓会活動について話し合いをしました。

○ー今、介護ロボットに注目していて、腰につけると四割くらい力で持ち上げることが出来るものとか、いろいろな介護ロボットが実用化されていて、二日後に某大学で研究発表が行われるみたいだけれど知ってた？

◎ー全然知らなかったなあ。

○ーもっとアンテナを張って情報収集しておかないと。今後、介護ロボットが導入されるようになると思うよ。

◎ー導入するのは金持ちの施設じゃないの？

◎ー神奈川県のリハビリ施設でロボットを大量に使って歩行訓練をしている施設があるので、遠い話ではないと思いますよ。

◎ー介護職員としては、介助を助けてくれるロボットなら大歓迎だね。

◎ーどの施設も人材不足なのでロボットを導入しないとやっていけなくなると思う。

◎ーうちの施設は介護人材育成のために外国人を受入れてますよ。

○ー外国人もみんな優秀で、やる気もあって頑張ってくれば良いけど、出稼ぎ感覚だと困るよね。

◎ーでも人材確保が出来なくなってきたので、出稼ぎ感覚でも良いので受入れていかないとやっていけないんですよ。

○ーみんなは気になってることや困ってること無い？

◎ー認知症の方が増えているので、予防を考えないといけないと思う。

◎ー高校時代に十年後にアルツハイマーの薬が出来るってテレビでやってたけど、全然出来そうもないね。

○ー昔はそんなにいなかったよね。加工食品や添加物の入った食事を取っていると脳に影響するのかもしれないと思う。農家の人は新鮮な野菜なんかを食べているので認知症が少ないうって聞いたことあるよ。

◎ー認知症や精神障害の方に対する理解を深めてくれると、その方の世界が変わっていくと思います。

○ー一人暮らしの認知症の方で、最後はこの家で迎えたいという方への在宅介護を行っている様子を見て、すばらしいなあって思った。

◎ー在宅支援の体制って地域によって格差が激しいよね。

◎ー地域で在宅支援の活動があるかどうかで違ってくるよね。地域の方に認知症サポーター研修に参加してもらって、みんなで認知症を理解して、支えあえる体制が取れば良いと思う。

◎ーボランティアをするという体制が出来ていない気がするね。

○ー私は認知症の患者さんと接しているところと癒される部分があって、私に関わるといつもと違う一面を見せてくれたり、休暇後に出勤すると「久しぶり、何処行ってたの？」なんて聞かれたりするとグツとくるものがあるって、私が仕事を続けられるモチベーションのひとつになってる。

◎ーそこを感じる事が出来れば、すごく魅力のある仕事ですよ。

◎ー私は障害者施設なんですけど、出勤すると利用者さんが「おはよー」

って窓から手を振ってくれるんですよ。すごくうれしいですよ。

○ーそういう事があるから続けられるんだよね。

◎ーでも、すごく離職率が高いじゃないですか。良いところではなく悪いところばかりが見えてしまうんじゃないでしょうか。

◎ー給料安いのも原因でしょう。

◎ー給料さえ高ければ、こんな天国みたいな仕事ないのになあ。

○ー勤務先の病院では、昨年から介護福祉士の手当が上がって準看護師と同じになった。就職当初は、看護師的扱いだったけれど、介護の専門家として意見を言ったり、やり方を変えたりして、実績を積み重ねた結果、病院が同等の資格だと認めてくれたってことじゃないかな。

◎ーそれってすごいことだね。

○ー自分に自信があったらそのくらい言っても良いんだよ。今後は、私たちがやってきたことが十年後もそれで良いのかって言うと、患者さんたちも違ってくるだろうし、その時代に合った介護っていうものがあるはずなので、後輩たちにはそこを学んで頑張ってもらいたいな。



- オーナー 松原宣子
- 卒業生 西野優子 岡 達也
- 森下慎也 河合俊樹
- 中神祥次 佐藤 渉
- 大原 徹